# 慢性心不全高齢者の疾患管理支援

関連するSDGsの国際目標

人間看護学部　人間看護学科　　教授　　久保　美紀
研究分野：成人看護学、慢性期看護

概要：心不全は、あらゆる心臓病の進行で生じる終末期病態像です。我が国の心不全患者数は人口の高齢化を背景に増加の一途を辿っており、医療経済的課題であることが指摘されています。そこで、慢性心不全高齢者が医療に依存せず、なおかつ社会から孤立することなく住み慣れた自宅で生活するための疾患管理支援について検討しています。

## ■デジタル化によって変化する心臓病患者・家族への療養支援

研究者（久保, 2021）は，デジタル時代の心臓病患者・家族への療養支援のあり方について事例を用いてシミュレートし看護師の役割について検討しました。

その結果，一人暮らしであってもデジタル機器を活用することで，自宅で循環器疾患（心臓病）の管理ができ，人との交流を絶やさず日常生活を豊かにするであろうことを結論づけました（図1）。

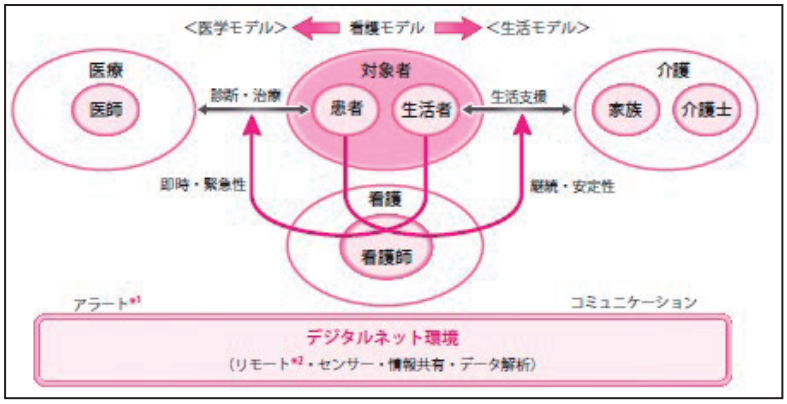



図1　デジタル化による医学モデルと生活モデルが交差的に媒介する循環器疾患在宅療養生活看護支援モデル（久保，2021）

## ■慢性心不全患者におけるセルフケアの関連構造

研究者（久保, 2013）らは，治療中の心不全患者を対象に慢性心不全患者におけるセルフケアの関連構造を明らかにしました。

その結果，慢性心不全患者は「家族機能」が基盤となって「心の管理」，「食生活習慣」や「治療・検査行動」が遂行できることで最終的に「主観的健康感(QOL)」が維持されることが示されました（図2）。

従って，慢性心不全患者の疾患管理においては，塩分・水分管理，体重測定，適度な運動などの「食生活習慣」や，服薬，定期受診などの「治療・検査行動」のみならず，病気の見通しが不明瞭であることによって生じる不安やストレス等の「心の管理」に目を向けることが重要です。

研究者（久保ら）は，個々の患者に応じた「心の管理」への支援方策を検討するべく，次なる研究を進めています。

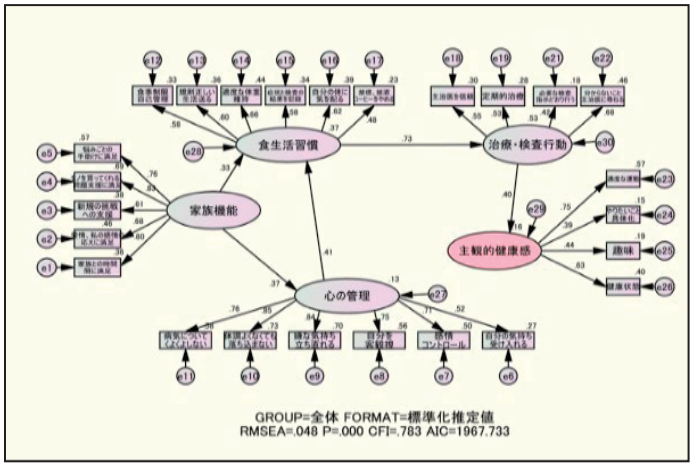



図2 慢性心不全患者におけるセルフケアの関連構造